

公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学

学報

2016

Vol.1

創刊号

平成 28 年度山陽小野田市立山口東京理科大学入学式



特 集

教育後援会設立総会を開催

Contents

設立式・入学式を挙行	P2
特集 教育後援会設立総会を開催	P4
山陽小野田市立山口東京理科大学ニュース	P4
都道府県別入学者状況／平成 29 年度入試情報	P6
名誉教授称号授与／新任教員紹介	P7
平成 28 年度予算／科学研究費補助金／学長室から	P8

平成 28 年度 設立式・入学式 を挙行

桜が満開に咲き乱れる青空のもと、4月6日(水)に公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設立式及び山陽小野田市立山口東京理科大学の入学式が執り行われました。

設立式では、白井博文山陽小野田市長が式辞を述べられ、その後、来賓の河村建夫衆議院議員、及び村岡嗣政山口県知事より祝辞をいただきました。

引き続き平成28年度入学式が挙行され、工学部221名（機械工学科68名、電気工学科68名、応用化学科85名）、大学院修士課程18名、計239名の新入生を迎え多くのご父母も出席されました。森田廣学長から、「大学への入学は人生の目標のための手段であり、目標ではありません。目標と手段をくれぐれも間違えることのないようにしてください。」と新入生を激励しました。また、多くの来賓の方々よりお祝いの言葉をいただきました。



白井博文山陽小野田市長式辞



河村建夫衆議院議員祝辞



「地域のキーパーソン」の育成という基本方針の実現に向けて



理事長 白井 博文

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学の設立にあたり、御挨拶申し上げます。

公立大学法人の設立につきましては、国及び山口県をはじめ、多くの関係者の皆様の御理解と御協力をいただき中、市民の熱意と河村建夫衆議院議員、村岡嗣政山口県知事の絶大なるお力添えなしには到底実現することは叶いませんでした。この場をお借りいたしまして心より御礼申し上げます。

山口東京理科大学の公立化は、平成26年7月31日に学校法人東京理科大学から山陽小野田市に対し「山口東京理科大学の公立大学法人化への移行に関する要望書」が提出されたことから始まりました。

公立大学の設立にあたっては、乗り越えて行かなければならない大きな山がいくつもありましたが、山陽小野田市議会におきましても山口東京理科大学の公立化に関する特別委員会が設置され、公立化を進めるにあ

たって大変強力で大きな支えとなりました。

多くの関係者の皆様の御協力により、当初の目標どおり本年4月1日に公立大学法人を設立することができました。

公立化後は、教育研究のあらゆる面におきまして学校法人東京理科大学から最大限の協力をいただけることになっていますので、公立大学として地域とともに歩み、地域社会の発展に貢献できる「地域のキーパーソン」の育成という基本方針の実現に向けて取り組んでまい

る所存であります。皆様方の御健勝と今後ますますの御活躍を祈念いたしますとともに、公立大学法人設立にあたり、御尽力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。御挨拶とさせていただきます。



学長式辞



新入生代表宣誓



機械工学科懇談会



電気工学科懇談会



応用化学学科懇談会

「大学は、生涯にわたり学び続けるためのすべを身につける所」

学長 森田 廣



山陽小野田市立山口東京理科大学へ入学された新入生の皆さん、おめでとうございます。また、今日まで、すべての面で支えてこられました御父母の皆様及び関係者の皆様に、心からお祝いの御挨拶を申し上げます。本学は4月1日より公立大学法人下の大学として新たな一歩を踏み出すことになりました。

本学は、「理学の普及をもって国運発展の基礎とする」を建学の精神として1881年に設立されました、東京理科大学の前身、東京物理学講習所に起源を発します。その精神を受け継ぎ、1987年に本学の前身であります東京理科大学山口短期大学が開設され、1995年に4年制大学へと転換、山口東京理科大学として現在に至っております。東京理科大学の教育の真髄は工学や科学技術の現場でしっかり活躍できるだけの力を会得したもののだけが卒業できる「実力主義」にあります。本学も、理科大のこの崇高な方針を継承して今後も社会

の諸課題の解決に向け、十分な実力を有する人材を育てていくことに変わりはございません。

さらに、公立化が成った今、一層の公正・公平性と透明性の大学運営を心掛け、本学に期待される地元、山陽小野田市や山口県の地方創生を推進すべく、一層の、地域に根ざした大学づくりを行っていかねばならないと決意しております。

大学時代に学ぶべきことは、すべての基礎となる知識と学び続けるための学ぶ方法です。ぜひ、学ぶ力を身につけてください。人生は学ぶことの連続です。どうか、ここに希望をもって入学された皆さんにおかれましては、健康に留意され、今の初々しい気持ちを忘れずに、しっかりした目標を形成し、それを目指して存分に学び、有意義な学生生活を過ごされますことを願って、御挨拶いたします。

「教育後援会」発足

初代会長に小田政之氏、大学の教育事業の振興と学生生活及び課外活動を支援

山陽小野田市立山口東京理科大学教育後援会の設立総会が10月22日(土)に本学を会場に開催されました。当日は好天に恵まれ、全国から140名を超える保証人が出席され、会長に小田政之様を選出されました。

「教育後援会」は、保証人と大学が密接な連携を図り、大学の教育事業を援助し、大学の発展に寄与することを目的とし、教育の振興、課外活動の充実、福利厚生等の増進、教育環境の整備に関する事業等を行うために設立されました。

小田会長は「ご子孫の学生生活が充実するために、本教育後援会は保証人の皆様と大学が協力して運営に努めていく所存です。皆様のご子孫と、ご子孫が通っている大学双方の発展をお互いに協力しながら推進していきたい。ぜひご協力のほどよろしくお願い申し上げます。」と述べられました。

設立総会では、教育後援会会則、役員選出、入会金及び会費、事業計画等、全ての審議事項が承認されたことを受け、小田会長から平成28年10月22日付をもって教育後援会が設立された旨の宣言が行なわれました。



設立総会であいさつする小田会長



設立総会に御出席された保証人

<教育後援会入会金及び会費>

区分	正 会 員		
	学 部	修士課程	博士後期課程
入会金	5,000円	5,000円	5,000円
会費	48,000円	24,000円	36,000円
合計	53,000円	29,000円	41,000円

<平成29年度事業計画>

- 進路支援費 模擬試験・資格試験対策講座の受験料補助、合同企業説明等
- 奨学金支援費 自然災害被災学生に対する特別措置等
- 課外活動支援費 体育大会運営助成費、学園祭運営助成費、学生表彰制度支援費等
- 福利厚生費 保証人懇談会実施経費、入学・卒業記念品の贈呈
- 事務運営費 教育後援会総会開催費、会報発行費等
- その他 周年記念事業積立金等

<平成28年度在学生に関する入会金及び会費>

区分	学 部			大学院		
	1年生	2年生	3年生	修士課程 1年生	博士後期課程 1年生	2年生
入会金	5,000円	5,000円	5,000円	5,000円	5,000円	5,000円
会費	36,000円	24,000円	12,000円	12,000円	24,000円	12,000円
合計	41,000円	29,000円	17,000円	17,000円	29,000円	17,000円

- 平成28年度在学生に関する入会金及び会費は、平成29年度に納入することになりました。
- 納入についての詳細は、別途教育後援会からお知らせがあります。



オープンキャンパス 2016を開催

7月30日(土)・31日(日)の2日間に、オープンキャンパスが開催されました。当日は、高校3年生・受験生のほか、高校1・2年生や、ご父母など700名を超える来場者があり、会場は大いに盛り上がりました。来場者は、大学説明会や入試説明会、保護者説明会のほか、各学科の研究実験体験コーナーや模擬講義、キャンパス見学ツアーなどに参加し、山陽小野田市立山口東京理科大学での学びや雰囲気を楽しみました。また、相談コーナーでは、真剣な様子で入試方式や受験の相談を行っていました。多数のご来場、誠にありがとうございました。



オープンキャンパスでの大学説明会の様子



かがく博覧会を開催 2日間で3,251名が来場

10月1日(土)・2日(日)の2日間、第7回山陽小野田市「かがく博覧会」がおのだサンパークにて開催されました。小中学生を中心に2日間で合計3,251名の来場者があり、会場は大いに賑わいました。この博覧会は、山陽小野田市と本学が共同で開催しているもので、市内の小・中学生の科学作品の展示や、市内の高校、大学、企業による実験ブースなどを出展。科学を学ぶ楽しさや驚き、感動を体験できるイベントとして7回目の開催となりました。

本学からも合計9つのブースを出展し、それぞれのブースで個性あふれる実験等が行われました。

また、10月2日(日)には、かがく作品展の表彰式が行われました。今回から新たに設けられた「学長賞」を受賞した小学4年生の児童は、記念に森田学長と写真撮影を行うなど、会場は和やかな雰囲気でした。

本学ではこれからも地域に貢献する大学として、様々な行事を通じて科学の面白さや感動を伝えられるよう努めてまいります。



テープカットを行う(左から)森田学長、白井山陽小野田市長、貴島教授



山陽小野田市立山口東京理科大学の実験ブースの様子

学生スポーツ大会を開催 学年を越えて交流

5月14日(土)に学生スポーツ大会を開催しました。これは、学科や学年を超えた学生同士の交流を図ることを目的に、毎年開催されているもので、大会の運営は、体育会の学生を中心に組織される「スポーツ大会実行委員会」によって行われています。競技種目は、ソフトバレーボール、サッカー、リレー、ドッチビーの4種目で、各競技の順位ごとにポイントをつけ、全種目の総合ポイントで優勝を決めます。今年は石川・北條研究室の連合チームが優勝しました。共にスポーツで汗を流すことによって、普段はなかなか接する機会のない参加者同士の親睦も、自然と深まっていたようです。



マナー向上キャンペーンを実施

7月6日(水)・7日(木)の2日間にわたって、マナー向上キャンペーンを実施しました。これは休み時間にキャンパス内を巡回し、喫煙マナー向上の呼びかけや、喫煙場所及び周囲の清掃をするボランティア活動で、2日間を通して多数の学生が参加しました。学生は、喫煙マナーに関するチラシを配布するグループとタバコの吸殻、ゴミ等を回収するグループに分かれて活動しました。



保証人懇談会を開催

10月22日(土)・23日(日)に、平成28年度保証人懇談会を開催し、243名にご出席いただきました。全体説明では、学生生活の状況や本学の学生支援制度、成績表の見方、進路状況、就職支援体制について報告がありました。全体説明の後は、個別相談が行われ、保証人の方々はそれぞれのチューター教員と、ご子女の大学生活や成績、進路について熱心に話を聞かれ、充実した懇談会となりました。



第14回全日本学生フォーミュラ大会に出場

9月6日(火)～10日(土)、静岡県で開催された第14回全日本学生フォーミュラ大会に、5年連続で本学の学生フォーミュラチーム「TUSY Formula」が出場しました。

この大会は、学生が企画・設計・製作した小型レーシングカーによって、①車検、②静的審査(コストプレゼンテーション、設計)、③動的審査(アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス、エンデュランス、燃費)の3つの種目で、ものづくりの総合力を競うものです。今年は、全種目完遂、完走し、昨年度の順位(47位)を大きく上回る、20位という結果を残すことができました。これからも、TUSY Formulaへの応援、よろしくお願いいたします。



キャンパスクリーンキャンペーンを実施

5月11日(水)・12日(木)と11月1日(火)・2日(水)の計4日間にわたり、大学構内とその周辺の道路の清掃を行う「キャンパスクリーンキャンペーン」を実施しました。4日間とも、多数の学生が参加し、JR雀田駅から大学までの通学路を中心に、ごみ袋を手にとりこの吸い殻や、空き缶を次々に回収しました。活動後は、回収したごみを各々で分別しました。今回のキャンペーンを通じて、参加者は環境美化への意識を高めることができました。



学生が住吉まつりで龍舞を披露

5月29日(日)、山陽小野田市で「復活!住吉まつり」が行われ、本学の学生が龍舞を披露しました。

当日は、沿道の観衆に見守られながら、メイン会場までの道のりをパレードしたのち、メイン会場では、大勢の観衆の前で、学生が雄大で華麗な龍の舞を披露し、観衆からは大きな拍手が起こり、学生の表情も達成感に満ち溢れていました。

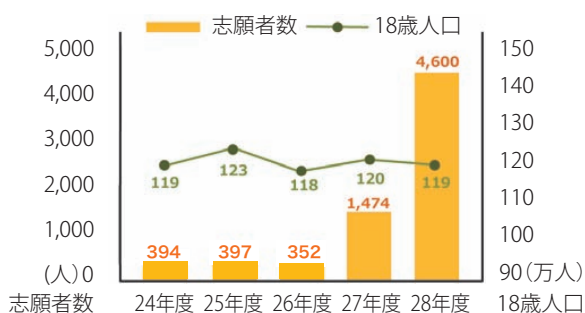




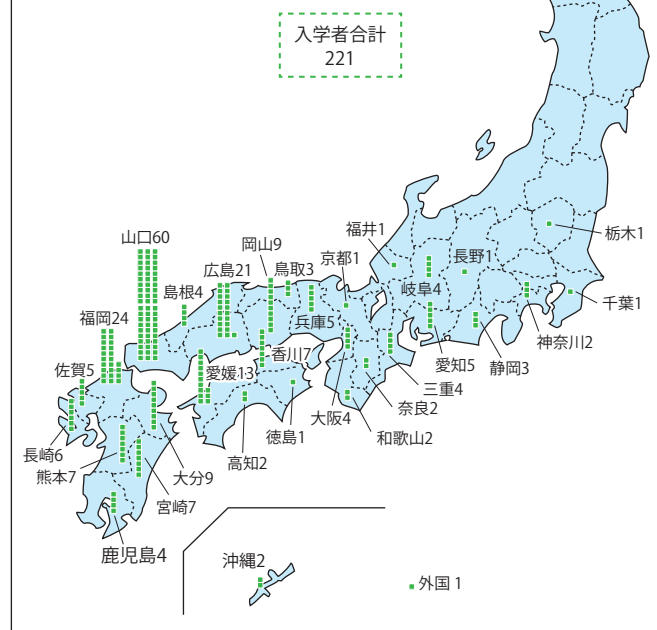
平成28年度入学試験 4,600人が志願

本学の平成28年度入学試験の志願者数は4,600人となり、過去最高となりました。本年度から公立化となるため、私立大学として行う最後の入試方式のため他の国公立大学と併願ができること、インターネット出願を導入したこと、地方試験場に広島と愛媛が新設されたこと、推薦入試に地域推薦を導入したことなどにより、全国1都1道2府42県（秋田を除く全県）から、200人の入学定員に対し、4,600人の受験生から志願していただきました。今後も全国から入学を目指す、魅力ある大学であり続けることが、本学と地域の発展にもつながっていきます。

●山陽小野田市立山口東京理科大学入試志願者の推移



●平成28年度 山陽小野田市立山口東京理科大学 出身高等学校所在地別入学者数



■平成28年度入学試験実施結果状況（学部）

（単位：人）

学科名	募集人員	志願者	出願倍率	県内・県外		受験者	合格者 (注 1)	実質倍率 (注 2)	入学者	県内・県外		男女別	
				県内	県外					県内	県外	男	女
工学部													
機械工学科	60	1,669	27.8	195	1,474	1,647	167	9.9	68	16	52	66	2
電気工学科	60	1,273	21.2	138	1,135	1,261	184	6.9	68	14	54	62	6
応用化学科	80	1,658	20.7	229	1,429	1,636	224	7.3	85	30	55	61	24
合 計	200	4,600	23.0	562	4,038	4,544	575	7.9	221	60	161	189	32

※再入学を含まない。

(注1) 合格者は、追加合格を含む (注2) 実質倍率 = 受験者数 / 合格者数



平成29年度一般入試情報

平成29年度の一般入試は、前期日程と公立大学中期日程により行い、大学入試センター試験と本学独自の個別学力検査の合計点によって合否を決定します。個別学力検査は、前期日程・中期日程ともに、山口、岡山、広島、愛媛、北九州、福岡、大分の7試験場で行います。一般入試の出願は、インターネット出願になります。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

<平成29年度一般入試の主な特長>

- 前期日程は、大学入試センター試験の得点を重視した「A方式」と個別学力試験の得点を重視した「B方式」から選択することが可能
- 山口・広島・四国・九州地区の公立理工系大学として初となる「公立大学中期日程」を導入

●平成29年度山陽小野田市立山口東京理科大学一般入試日程

入試日程		募集人員	出願期間	試験日	合格発表日	試験場
前期日程	A方式	48人	平成29年 1月23日(月)～2月1日(水)	2月27日(月)	3月7日(火)	山口 岡山 広島 愛媛 北九州 福岡 大分
	B方式	48人				
公立大学 中期日程		26人	平成29年 1月23日(月)～2月1日(水)	3月8日(水)	3月20日(月)	山口 岡山 広島 愛媛 北九州 福岡 大分

名誉教授称号授与

平成28年3月17日付で、永年にわたり本学の教育・研究の発展に尽力され、多くの功績を挙げられた2名の先生方に名誉教授称号を授与しました。



田丸 謙二（たまる けんじ）先生

東京大学理学部で20年以上にわたり教授として教鞭を執られ、同大学を退官された後、昭和59年に東京理科大学理学部第一部化学科の教授として着任されました。その後、平成7年4月の山口東京理科大学の開学時から平成11年3月まで、東京理科大学及び山口東京理科大学と併せて15年間教育・研究に尽力されました。山口東京理科大学では、基礎工学部素材基礎工学科の教授、基礎工学部長として、本学の4年制大学の立ち上げにご尽力いただきました。



鈴木 康一（すずき こういち）先生

東京理科大学理工学部で40年以上にわたり教鞭を執られ、平成21年4月に山口東京理科大学機械工学科教授として着任されました。東京理科大学及び山口東京理科大学と併せて48年間教育・研究に尽力されました。山口東京理科大学においては、工学部長、大学院研究科幹事、機械工学科就職幹事などを歴任され、本学の運営や発展に多大な貢献をされました。また、ご専門の機械系熱工学、熱流体分野におかれましても貴重な研究成果を挙げておられます。

新任教員紹介

平成28年4月1日付で、7名の先生方が山陽小野田市立山口東京理科大学に着任されました。



【工学部】
機械工学科／講師
海野 徳幸
うんの のりゆき
博士（工学）



【工学部】
機械工学科／助教
越智 裕章
おち ひろあき
博士（工学）



【工学部】
機械工学科／助教
木伏 理沙子
きぶし りさこ
博士（工学）



【工学部】
電気工学科／助教
合田 和矢
ごうだ かずや
博士（工学）



【工学部】
共通教育センター／教授
吉村 高男
よしむら たかお
元山口県立萩高等学校長



【工学部】
共通教育センター／講師
吉見 陽児
よしみ ようじ
博士（理学）



【先進材料研究所】助教
Vagvala Tarun Chand
ヴァグヴァラ タルン チャンド
博士（工学）

Finance 平成28年度予算

平成28年度は、大学運営の基盤整備を重視した効果的かつ効率的な予算編成を行いました。

1 教育研究の充実

教育研究の一層の充実を図るため、教育研究費・実験実習費を安定的に措置するとともに競争的資金の獲得に努める。

2 施設等環境整備の充実

市から出資された大学の施設設備を良好な状態で維持管理するための修繕等を計画的かつ効率的に実施する。

3 地域貢献活動の充実

産学官連携、地域連携に向けた活動を推進する。

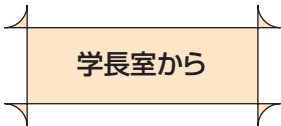
収入の部 (単位:千円)	
科目	28年度予算額
運営費交付金収入	850,000
学生等納付金収入	563,957
受託研究費等収入	5,330
補助金収入	55
財務収入	80
雑収入	9,300
その他	5,278
収入の部合計	1,434,000

支出の部 (単位:千円)	
科目	28年度予算額
人件費	596,820
一般管理費	594,470
教育経費	123,758
研究経費	45,608
教育研究支援費	38,014
受託研究費	5,330
予備費	30,000
支出の部合計	1,434,000

Plan 科学研究費助成事業

文部科学省の科学研究費補助金助成事業として、平成28年度は本学の次の研究課題が採択されました。

研究種目	氏名	研究課題名
基盤研究 (C)	教授 白石 幸英	一次元ナノ材料と高分子錯体複合膜を用いるハイブリッド熱電変換素子の創製
	教授 永田 寅臣	ORiNを用いた「3Dプリンターライクに利用できる新しい除去加工ロボット」の開発
	教授 結城 和久	省エネルギー・低炭素化社会を支える一方向性ユニポーラス銅ヒートシンクの開発
	教授 吉村 敏彦	機械的及び電気化学的キャビテーションによる高効率水素生成・吸蔵技術の開発
	准教授 池上 啓太	硫化物系光触媒の高機能化による水の完全分解システムの開発
	講師 山本 眞也	災害救助支援のための自立型移動センサノードの協調動作による災害後屋内マップの生成
研究活動スタート支援	教授 石川 敏弘	結晶質炭化ケイ素繊維の高性能化生成
若手研究 (B)	講師 大塚 章正	統計公差指標を用いた製品性能に基づく許容差設計法の開発と実用性の検証



大学の存在価値に向けての大学の決意

本学は、平成28年4月1日より、国からの交付金を運営の大きな原資とする公立大学に移行しました。公立化したことにより学生の授業料は国立大学並みに従来の私学時代に比べると半分程度に減らすことができました。そして、今年度の志願者は定員の200人に対して4,600人となりました。本年度入学者221人のアンケート調査からは、本学志望理由を「学費の低下」「公立化による質的向上」としている人が多いことがわかります。これらの背景を考えるにつけ、理工系大学の少ない地方で理系に進みたいのだけれど、私大だと学費が高いし、学力に自信があっても都会に出て国公立の理系で学ぶには生活費がばかにならない、そういう人がこの地方には多いのではないかと思います。奨学金の受給割合が公立大>国立大、私立大の順であることから、地方のこうした事情がつかがい知れます。これまでも私立大学時代にご家庭の経済的事情で勉学を断念せざるを得ない学生やアルバイトのために疲弊してしまった学生を多く目にし、私自身、心を痛めてきました。

現在、国内には600を超える私立大学と86の国立大学、88の公立大学があります。とりわけ私立大学の4割が入学者の減少のために経営難に陥っていると聞いています。18歳人口が減少する中、単に今までと同じように構えていただければ大学の存在価値そのものが失われていくといっても過言ではありません。本学はそのような中、公立化により、地方

にあって理工学を志す生徒に広く勉学の機会を提供することにより大学としての存在意味を明確にすることができました。またこの地における本学の存在は人口減少から将来を憂う、国家の地方創生政策に合わせた地域への貢献の大きな可能性を秘めています。

これらの期待に応えていくことが大学としての存在を確かなものとするのだと信じ、本学は、大学本来の使命である「教育」「研究」を通じて、「人材育成」と「地域貢献」に関するビジョンを定め、地道な実行を「アクションプラン」として進めております。

そして、将来に向けては、少子化の中、確固たる本学の存在価値を示し、この地になくてはならない大学として皆様に認知していただくには、さらなる本学の魅力を訴求していかねばなりません。本学は2年後に開学する薬学部も含め、様々な魅力を開拓していくつもりです。ドロッカーは、「組織」は手段であり、目的ではない、と明言しています。組織の保全や存続のために社会に無理を生じるようなことは断じてなりません。大学も同じです。いかなる大学も社会に、地域に必要とされてこそその存在であるべきです。本学はこのことを肝に銘じて、あらたなスタートを切りました。本学に関連するステークホルダーの皆様には、暖かくも厳しい目で、今後も本学を注視していただきたいと存じます。

学長 森田 廣